

子どもたちの笑顔を未来へつなぐため  
**「苫小牧市立学校再編ビジョン」(素案)を策定しました**

詳細 総務企画課 (32)6739

**背景**

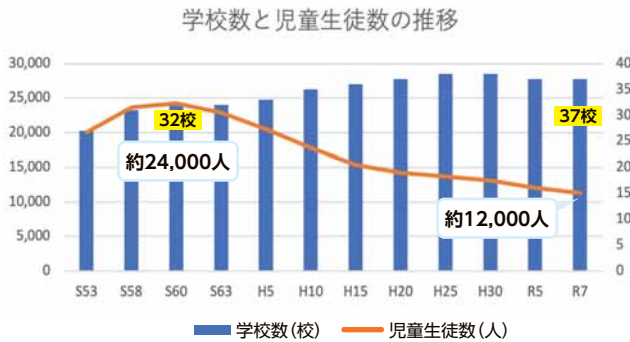
少子化の進行により、児童生徒数は昭和60年の約24,000人をピークに減少し、現在、約12,000人と半減。令和18年度には約7,600人まで減少する見込みです。  
 →クラス替えが行えない学校が増加し、多様な考えに触れる機会の減少や、運動会などの学校行事に制約が生じます。

新入学児童数  
 R1 1,437人  
 R8 1,083人  
 R14 約800人



**学校再編の基本方針**

- ① クラス替えができ、より充実した集団活動が可能な環境の整備
- ② 全市的な配置バランスを見極めながら隣接校と統合(通学距離、小中連携の要素を考慮)
- ③ スクールバスの活用などを検討し、通学の安全を確保



「地域」の範囲を少し広げて、より多くの人で学校を支えましょう!



**統廃合対象校**

37校を10年間で12校減の25校に再編

廃校	統合先	実施予定年度
勇払小・勇払中	義務教育学校へ	令和12(2030)年度
清水小	緑小	令和14(2032)年度
美園小	緑小(明野小)	
凌雲中	緑陵中	
糸井小	大成小	令和15(2033)年度
苫西小	大成小(苫東小)	
若草小	苫東小	
開成中	和光中	令和16(2034)年度
日新小	北星小	
豊川小	北星小(北光小)	
啓明中	明倫中(緑陵中)	令和17(2035)年度
明野中	和光中	

- 児童生徒数の推移や学校の老朽化、在校生への影響を最小限とすることを考慮して実施年度を設定しました。
- 本ビジョン策定後は、学校(地域)ごとに統合に向けた課題に対する方策などを検討していきます。

**【閉校後の校舎の利活用について】**

学校は地域コミュニティの核となっており、災害時の指定避難所としての役割をはじめ、さまざまな性格を有しています。閉校となる学校については、校舎の老朽化など施設の状態や各地域の実情に応じた対応を市と連携して検討していきます。

**学校再編による効果**

- クラス替えを契機とした意欲の向上
- 友人同士、学級同士が切磋琢磨できる
- 多様な意見や考えに触れる機会が増える
- 人的支援や設備環境を集約できる

友達がたくさん!!  
 新しい友達をつくりたい!!

教員不足を解消、指導体制が充実し、学校の組織力を向上

保護者の役割や費用負担も軽減

**保護者アンケートの結果**

■ 未就学児の保護者・・・  
 望ましい1学年あたりの学級数について、93.7%がクラス替えのできる2~4学級と回答

■ 在校生の保護者・・・  
 現在の学級数と満足度について、2学級以上の場合、「満足」が過半数を超えるが、1学級の場合は「不満」が過半数を超える。

学級編成イメージ(35人学級)  
 =1学級は35人を上限とする。

A校 1学級30人      B校 1学級10人

統合A+B 40人  
 20人、20人の2学級

**今後の進め方**

令和8年度に、地域住民の皆さんに説明会を開催し、意見交換を重ねながらビジョンを策定します。

詳細▶

